

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174700864		
法人名	有限会社ひまわり		
事業所名	グループホームひまわり・笑顔(ひまわりユニット)		
所在地	河東郡土幌町字土幌西2線166番地10		
自己評価作成日	令和元年11月10日	評価結果市町村受理日	令和2年2月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0174700864-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号
訪問調査日	令和元年12月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月担当者がその月の生活の様子を写真入りの手紙に書きご家族に送っている。地域の方々に夕涼み会等の行事に参加して頂いたり、災害時等緊急時には一斉通報にて避難訓練にも参加、ご協力頂いている。

週に1回食べたい物を聞きメニューに反映している。

個室にトイレ・洗面台がありプライバシーが確保されている。

どなたでも面会が出来るよう声掛けを行い、風通しの良いホームになっている。

毎日の食事は職員が手作りし、お正月にはおせち料理も作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業者は町内で唯一のグループホームで、病院や商業施設、郵便局がある利便性の高い市街地の中心部に位置している。平屋建ての建物に2ユニットがあり、共用空間はゆとりがあり明るい。利用者とその家族のほとんどが地元ということもあり、日常的に縁者とふれあう機会があり、馴染みの関係を支援している。運営者は職員が事業所に帰属意識や介護職としてモチベーションを高く持って勤務できるような環境整備を行い、職員の定着と質の向上を目指している。職員の持つ個別の経験を非言語的なスキルではなく言葉にして職員間で共有することに努めており、根拠のある介護を適切に行い、見直すことで、その時必要な介護と利用者の自立や能力の維持を見据えた介護計画を作成している。法人内に各種の委員会があり、勉強や連携などお互いに切磋琢磨し向上していくよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念						
1	1	○理念の共有と実践 グループホームひまわり・笑顔(ひまわりユニット)	理念をスタッフルーム、玄関に掲示している。業務日報に記載、スタッフ会議の時もホワイトボードに書き常に理念に基づいてケアをするように努めている。	事業所理念を玄関やスタッフルームに掲示し、会議などで共有して、理念を常に意識しながら、利用者一人ひとりとの関わりを大事にする支援に心掛けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事に参加したり、買物へ行き知り合いとふれあう機会がある。行事には地域の方がボランティアとして協力して頂いている。近所の方から野菜頂いたり、敬老の日やお彼岸にはお赤飯、おはぎを配り交流を深めている。	散歩時に地域住民と会話したり、町内会の行事に参加して地域住民と交流している。事業所の行事にはボランティアとして地域住民が参加したり、住民より野菜を頂いたりするなど交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練やホームの行事等に参加して頂き、理解を得られるように努めている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回実施している。利用者の現状報告、事故報告、行事報告等委員の方に意見を頂き、改善策を話し合い、会議内容は記録しサービス向上に努めている。	年6回開催し、役場職員、社会福祉協議会、民生委員、地域住民、家族代表等が参加して、活動報告や事故報告、防災訓練の報告等を行い、意見や助言を得て運営に反映させている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の主催する地域包括会議等に出席している。町担当職員と常に連絡を取り、より良いケアに努めている。	管理者が役場を訪問し情報入手や、指導を受ける等協力関係を築くよう取り組んでいる。生活保護受給者がいるので定期的に役場から訪問指導を受けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切していないが、入居者の転倒防止、日中徘徊する入居者がいる為、玄関にセンサーを設置し、外に出る時は職員が付き添うケアをしている。	身体拘束虐待防止委員会を定期的に開催して、具体的なケースを取り上げ身体拘束の内容を理解し、拘束の無いケアに努めている。外に出たい利用者には付き添って歩く等、利用者が落ち着くのを待つ丁寧なケアを実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、虐待防止研修会を開き職員の意識を高めるとともに、日々、職員同士声掛け確認を行い防止に努めている。			

グループホームひまわり・笑顔(ひまわりユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な人には情報を提供し、支援しており制度を利用されている利用者もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が事前面接や契約時に不安や疑問を十分に説明し、理解、納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の時に、入居者代表、家族代表を交えて意見を頂き、反映している。ご家族来訪時、個別に要望を聞いている。	利用者の意見、要望は日常の会話から意向の把握に努め、毎月利用者の様子を写真掲載と手書きによる手紙などを添えて家族に送付し、家族来訪時に意見や要望を聞いている。また、運営推進会議で家族や利用者からの意見等を聞き、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談やスタッフ会議にて意見を反映している。職員間は申し送りノートを活用している。	管理者は日頃から話しやすい雰囲気作りに努めるとともに、朝礼やミーティング、会議で意見や提案を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力認定評価の実施にて、実績に応じて給与に反映されるなど、各自がやりがいを持てるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材開発計画により、自己研鑽費として、各個人に対し、希望する研修・書籍の購入ができればキルの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等参加した際に、同業者と交流する機会があり情報交換をし、サービスの向上に努めている。		

グループホームひまわり・笑顔(ひまわりユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にホームを見学して頂き要望、不安な事などを聞き取り、職員に周知している。安心した生活が送れるよう、入居者の話に耳を傾け関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居受け入れ時、管理者・看護師が電話や事前面接などで、ご家族から良く話を聞き、安心感を持って頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居受け入れ時、管理者が作成した事前面接表、情報提供表をもとに、ケアプランを作成している。職員も情報共有し、今までの生活を維持出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活での、仕事などを分担し、助け合いながら生活する事で、個々の役割や助け合いの関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来館された時に、利用者の情報を共有したり、出来る範囲での役割や関わりをお願いし、支え合う関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の負担にならない範囲で、外出や買い物など以前の関係が少しでも途切れる事のないように、支援に努めている。	基本的に利用者の行きたい所に行くよう取り組んでいる。又、家族以外の知人等の来所も積極的に受け入れ、これまで大切にしてきた馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等参加して頂きコミュニケーションを取ったり、家事の手伝いをお願いしながら利用者同士関わりを持ち、楽しく暮らせるよう努めている。		

グループホームひまわり・笑顔(ひまわりユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても、お盆時期には墓参りに行ったり、訪問し仏前に手を合わせる等、断ち切らない関係作りを大切にしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話などから希望や意向の把握に努めケアプランを作り、モニタリングをしその人に沿った支援をしている。	日々の会話、家族の情報から思いや意向の把握に努め、日々の記録に残し、得られた情報は全職員で共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接に本人、家族、利用施設等から詳しい情報を聞き、家族にはセンター方式の記入にもご協力して頂いている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや会議などでADL等の状況を共有し、現状の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のスタッフ会議で課題を出し合い、モニタリングを行っている。会議で意見等を話し合い、利用者の状況に沿ったケアプランを作成している。	家族や利用者の意向を反映させ、モニタリングや会議で出た意見を基に、介護計画を作成し家族の承認を得ている。また、利用者の状況の変化に応じて、随時、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートの記録および申し送り等で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族が希望した場合は外泊や外出をしている。相談や要望があれば話を聞き、受診対応など必要に応じた対応をしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の祭りの見学、避難訓練や運営推進会議の実施。ホームの行事にボランティアの方にも参加協力頂いている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は血圧測定の数値を持参するなど、情報提供している。家族が受診の付き添いをする時は、医師に手紙を書いて情報を提供し家族の安心に繋がるよう努めている。	かかりつけ医受診の継続を支援している。通院は家族同行が原則だが、職員が同行で受診することもある。受診記録は同行した職員や家族からの報告を基に作成し、常に本人の状況が把握できるようになっている。		

グループホームひまわり・笑顔(ひまわりユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回入居者の健康状態を診ている。日常の様子、状況を報告し、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。いつでも相談できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行き状態を聞いたり、看護師、ご家族からの情報も得ながら、早期退院が出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に終末期の方針の説明を行い、家族に書面にて意向を確認している。	終末期の方針については、入居時に利用者、家族に説明し同意を得ている。重度化した場合は、利用者や家族、医療関係者と連携し、方針を共有して最大限の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生に備えて、一斉通報システムを導入している。定期的に消防署主催の普通救命救急講座・AED講習を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練をしている。消防署指導のもと、初期消火訓練や夜間想定での避難訓練を実施している。地域の方にも、一斉通報システムに登録していただき、避難訓練にも参加して頂いている。災害対策委員会がある。	消防署指導の下、防災訓練を地域住民を交えて年2回実施している。災害発生時には職員、地域住民へ協力要請が一斉通報システムにより行われる。	異常気象による災害がある中、想定外の災害を考えた避難方法や、地域との連携の強化、備蓄品の見直しなど、現状ある災害マニュアル整備を強化する事を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の身体・精神面・生活歴などを把握し、状況に応じた声掛けや対応を行うように心がけている。プライバシー保護のため、メモ等はシュレッダー処理している。	一人ひとりに合わせて、誇りやプライバシーを損なわない声かけ、対応を心がけている。面会簿や記録帳票類も適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の献立の希望を週に一度聞いている。外出も本人の意向を確認してから行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	担当職員が中心となり24時間支援シートを作成し、本人の思いを反映させ一人一人のペースに合わせた暮らしができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各自室に鏡やヘアブラシがあるので自由に身だしなみを整えている。2ヶ月に1回訪問美容を利用している。		

グループホームひまわり・笑顔(ひまわりユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の希望を聞き、献立に反映するようにしている。調理の際には、作り方を聞いたりしている。後片付けや買い物も手伝って頂いている。	利用者と日常の会話の中から好みに応じた献立や季節メニューを取り入れている。利用者の意欲を大切に、調理や後片付けなどに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた量、形態、嗜好の好みで提供している。水分は日中2~3時間おきに摂ってもらうようにしている。献立は野菜を多く取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけをしたり、義歯洗浄の支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムの把握に努め、日常の仕草や様子からさりげなく声掛け、誘導に心がけている。失敗を減らす為にボール運動を取り入れている。	排泄チェック表等から一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレがある個室や共用のトイレへ誘導して出来るだけトイレでの排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らないよう、野菜のおかずを多く取り入れ、センナ茶や起床時に牛乳を提供する等している。下剤の調整は、排便の状況を確認しながら看護師に相談し行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴を実施しており、一人一人の状態に合わせた温度設定、入浴時間を心がけている。	入浴は週3回を基本とし、利用者の状況や希望に合わせた時間で支援をしている。嫌がる利用者には入浴時間や利用者の動向を見ながら声掛けを行いタイミングを含め柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共有スペースには、ソファーや膝掛け、クッションを用意している。傾眠されている際には、居室で休んで頂くよう声掛けしている。夜間は安眠して頂けるよう静かな環境作りにも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況については、個々のファイルに管理しスタッフが確認出来るようにしている。内容変更時には受診結果表に記載し、注意点について確認し合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が高齢者の為、出来る事が少なくなっているが、基本情報を基に、縫い物、調理、花壇づくり等出来る事を職員と一緒にしたり、外食にも出かけている。		

グループホームひまわり・笑顔(ひまわりユニット)

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望や体調に配慮し、散歩やドライブ、日常の買い物に出かけている。近所への散歩、ご家族との夕食やお墓参りなど馴染みの場所への外出支援をしている。	利用者の体調に配慮しながら、近隣への散歩や買い物に出かけられるよう支援している。また、家族の協力によりドライブに行ったり、夕食等に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を自己管理する事が可能な方には小遣い程度ではあるが、ご家族了承のもと自分で現金を持たせている。外出や個人での買い物は個別に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時にいつでも対応出来るようにしている。手紙等は切手購入、投函など支援している。個人で携帯電話を持たれている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂に季節の花を飾り四季の様子がわかるようタペストリー、写真等を掲示したり、入居者が書いた絵や日常の写真を飾っている。	利用者の作品や外出時のスナップ写真等が共用部の壁に掲示されている。居間のソファの場所は利用者の特等席か、くつろいだ雰囲気醸し出している。加湿器などで湿度管理をして、利用者の体調を維持する様支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、リビング、デッキと自由に過ごせる共用空間がある。ソファでくつろげるよう膝掛け、クッション等を用意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家で使っていたものを持ってきて頂くよう伝え、本人の馴染みのあるものを使用する事で、居心地よく過ごせるよう工夫している。仏壇を持って来られた方には花などを備えている。	利用者は使い慣れた家具や仏壇、生活用品を自由に持ち込み、思い出の品や写真などを飾り、居心地の良い安心できる居室となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口に手作りの表札をつけたり、身体機能の低下に合わせて、手すりを設置したり、居室の模様替え、物干しの高さの調整等、安全で自立した生活が出来るよう工夫している。		